



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT 2018年度

IIR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2018年度

ANNUAL REPORT 2018年度

INDEX

目次

はじめに	
イノベーション研究センターについて	i
I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) 国際シンポジウム等	04
II. 研究員	05
1) 専任研究員	06
2) 兼任研究員	24
3) 外国人研究員（客員）	24
III. 教育活動	25
1) 講義	26
2) イノベーションマネジメント・政策プログラム	31
IV. 研究成果および刊行物	33
1) 一橋ビジネスレビュー	34
2) ワーキングペーパー	39
3) ケーススタディー	42

イノベーション研究センターは、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、イノベーションの生成プロセスに関するわれわれの理解は不十分な状況にあり、技術開発の領域でイノベーションが扱われることはあっても、技術的発明が産業発展へと実を結ぶまでの長い社会的プロセスには、十分な注意が払われてこなかったといえます。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。イノベーション研究センターが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

主たる研究領域として、技術や組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明しようとする「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者の個人的特徴を解明しようとする「革新者研究」、また、企業や大学、個人などの主体間のつながり方によってイノベーションが受ける影響を解明しようとする「ネットワーク研究」、こうした実証的研究を大きな視野で位置づけ、背後にある歴史的コンテクストを理解し、イノベーションの発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などのイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、そしてさらに、これらの実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる領域として「知識経営研究」、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」が設けられています。

イノベーション研究センターでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11 月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として 発足した
1945年	5 月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5 月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6 月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4 月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4 月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育 研究施設に改組されて発足した
2000年	9 月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊
2012年	4 月	商学研究科の附属研究施設となった

I. 研究活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. イノベーション研究フォーラム——2018年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らを交えて、月1回程度のペースで行っている。

<http://www.iir.hit-u.ac.jp/pages/forum/index>

国内の研究者にとどまらず、海外の研究者の研究発表を積極的に主催することにより、国際的な研究交流を活発に行い、研究水準のさらなる向上に努めている。

- | | |
|-------|--|
| 4月10日 | 松本陽一
“Inter-temporal Scope Economies and Resource Reallocation: Entries, Retrenchments, Business Deepening in Global Semiconductor Industry”
(神戸大学経済経営研究所，准教授) |
| 4月25日 | Alice Katharina Bauer
“Opportunities, Environment & Business Interaction: Exploring the Entrepreneurial Process through the Structuration Theoretical Lens”
(Lecturer, Institute for Strategic and International Management, Hamburg University of Technology) |
| 5月2日 | Ann Weiland
“Sectoral Dynamics in the Solar Photovoltaic Industry: Selecting Global Innovation Strategies”
(Ph.D Candidate, TU Dresden) |
| 6月5日 | 花本伸行
“On the Roots of the Intrinsic Value of Decision Rights: Evidence from France and Japan (joint work with João V. Ferreira and Benoît Tarroux)”
(ニース・ソフィア・アンティポリス大学，経済経営学部，教授) |
| 6月20日 | Daniel Ehnes
“Market Reactions to Downsizing Announcements: The Role of Strategy and Knowledge Intensity”
(Research Assistant, Faculty of Economics and Business Administration, Goethe University Frankfurt) |
| 6月27日 | Ivar Padrón-Hernández
“MNC Subsidiary Strategy and Institutional Responses in PET Bottle Reverse Vending”
(Affiliated Researcher, European Institute of Japanese Studies, Stockholm School of Economics) |
| 7月10日 | Niraj S. Mankad
“Open Innovation and Creation of Products and Services in the Media Economy”
(Assistant Professor, School of Business, FLAME University) |

7月11日	Wen Pan Fagerlin “Participation, Facilitation and Empowerment: A Study of Top Managers’ Involvement in Control Practices of Innovation Processes” (Postdoctoral Research Fellow, Visiting Researcher at Hitotsubashi University)
10月10日	Martin Hemmert “Managing the Paradoxical Tension between Exploration and Exploitation in Inter-organizational Relations: The Case of University-industry Research Collaborations” (Professor, School of Business, Korea University／イノベーション研究センター客員教授)
11月28日	ElHassan ElSabry “High Cost of Academic Journals as a Potential Barrier to Knowledge Transfer to SMEs” (Adjunct Assistant Professor, Institute of Innovation Research, Hitotsubashi University)
12月12日	Martin Hemmert “Why Not Internationalization? A Longitudinal Study of IT Start-ups in China, South Korea and Japan” (Professor, School of Business, Korea University／イノベーション研究センター客員教授)
1月8日	Vili Lehdonvirta “The Evolving Digital Economy: Towards a Platform Society” (Ph.D, Associate Professor at the Oxford Internet Institute, University of Oxford)
1月25日	Helen Zhao “Social Network Research Method Workshop” (Assistant Professor, Faculty of Business and Economics, The University of Hong Kong)
1月25日	Ning Li “Social Network Perspectives in Organizational Research: Past, Present, and Future” (Associate Professor, Tippie College of Business, The University of Iowa)
3月18日	Donal Crilly “Corporate Social Counterpositioning” (Associate Professor of Strategy & Entrepreneurship, London Business School)

2. 国際シンポジウム等

■「IIR Summer School 2018」

Venue: Sano-shoin Hall of Hitotsubashi University

Date: August 25, 2018

Organized by: IIR, Hitotsubashi University

Opening:

10:00- 10:15: Yaichi Aoshima

Session1: (Chair: Byeongwoo Kang)

10:15-10:55: Ivar Padrón-Hernández

“Institutionally Derived Enablers and Tactics of MNC Subsidiary Influence on Headquarter Strategic Initiatives”

10:55-11:35: ElHassan ElSabry

“Can Philanthropy Compensate for the Decline in Public Research Funding? Analyzing Research Funded by Members of the Science Philanthropy Alliance”

11:35-12:15: Tohru Yoshioka-Kobayashi

“You Can Learn More from Those Who Copied Your Knowledge than from Your Alliance Partners: A Technological Return from Knowledge Spillovers to Originating Firms”

Session 2: (Chair: Kentaro Nakajima)

13:15-13:55: Maria Vasileva Ilieva & Jin-ichiro Yamada

“BoD Decision-making Process for Renovation after a Prolonged Fraud: Olympus Case Study”

13:55-14:35: Yin Deyun

“Inter-Organizational and Geographical Mobility of Chinese Inventor: Patterns and Impacts”

Session 3: (Chair: Atsushi Ohyama)

14:50-15:30: Daisuke Uchida

“Imitation? Environmental Signals and Similarity of Behavior in Hiring by Japanese Firms, 1974-2011”

15:30-16:10: Chirantan Chatterjee

“When the Big One Came: A Natural Experiment on Demand Shocks and Market Structure in India’s Influenza Vaccine Markets”

Guest Speaker:

16:10-17:10: Hiroyuki Odagiri

“Innovation and Competition Policy: With Applications to Japanese Cases”

II. 研究員

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 専任研究員——2018年度



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D. (経営学) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2018年～ 一橋大学イノベーション研究センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

藤原雅俊・青島矢一『イノベーションの長期メカニズム：逆浸透膜の技術開発史』東洋経済新報社，2019年8月，456頁

1.2. 論文，本の1章

Min, Yong-Ki, Sang-Gun Lee and Yaichi Aoshima, “A Comparative Study on Industrial Spillover Effects among Korea, China, the USA, Germany and Japan,” *Industrial Management & Data Systems*, Vol. 119, Issue 3, April 2019, pp. 454 - 472, refereed
<https://www.emeraldinsight.com/doi/abs/10.1108/IMDS-05-2018-0215>

武石彰・青島矢一「ビジネスケース：シマノ 自転車部品トップ企業の弛まぬ挑戦」『一橋ビジネスレビュー』67巻1号，2019年6月，114-140頁

1.3. その他

「イノベーション力、米IT突出 トヨタ11位・楽天33位 日経・一橋大『イノベーション力』ランキング」『日本経済新聞』2018年12月19日，朝刊1面（記事内にコメントが掲載された。）

青島矢一「規模と成長力 両面を評価」『日本経済新聞』2019年3月23日，朝刊8面（書評）

立本博文（著）『プラットフォーム企業のグローバル戦略：オープン標準の戦略的活用とビジネス・エコシステム』『書斎の窓』有斐閣，2018.05月号（No. 657），2018年5月，
http://www.yuhikaku.co.jp/static/shosai_mado/html/1805/06.html

2. 未出版物

2.1. ケーススタディ

三浦友里恵・青島矢一「石川県七尾市における『街づくり』の挑戦」IIR ケーススタディ CASE#19-05, 2019年3月

3. コンファレンス、学会発表

Aoshima, Yaichi, Kazunari Matsushima and Naoki Takada, “How Do Influences of Funding and Funded Organizations Affect Performance of Publicly-Supported Private R&D Projects?,” PICMET’ 18, Portland International Center for Management of Engineering and Technology, August 22, 2018, Hawaii, USA, refereed



和泉 章

■ 履歴

- 1987年 東京工業大学工学部電子物理工学科卒業
- 1989年 東京工業大学大学院理工学研究科電子物理工学専攻修士課程修了
- 1989年 通商産業省入省
- 1999年 米国タフツ大学フレッチャースクール法律外交修士課程修了
- 2003年 ドイツ証券会社東京支店株式調査部（～2005年）
- 2004年 東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻博士課程修了
（博士号（工学）取得）
- 2010年 （独）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
新エネルギー部長（～2012年）
電子・材料・ナノテクノロジー部長（～2013年）
- 2013年 経済産業省産業技術環境局認証課長 兼 管理システム標準化推進室長
- 2014年 経済産業省産業技術環境局国際電気標準課長
- 2015年 （独）製品評価技術基盤機構（NITE）企画管理部長
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

- 和泉章「安全システムによるイノベーションと場の形成」菊池純一・小林直人編『場のイノベーション：異なるコト・モノの協創のための理論と実践』中央経済社，2018年9月，所収，第11章，269-286頁
- 和泉章「一橋大学イノベーション研究センター イノベーションマネジメント・政策プログラム（IMPP）」『画像電子学会誌』，Vol. 48, No. 1, 2019年1月，178-179頁
- 和泉章・吉田博一（協力）「エリーパワー：卓越したテクノロジーマネジメントによるリチウムイオン蓄電システムの事業化」『一橋ビジネスレビュー』66巻4号，2019年3月，64-77頁

2. コンファレンス、学会発表

- Izumi, Akira (Poster), “Joint Lectures by Five Universities in Tama, Tokyo on Standardization,” Standards Education Exhibition, IEC (International Electrotechnical Commission), October 21-26, 2018, Busan, Korea
- 和泉章「NEDO 技術開発プロジェクトにおける企業の参加形態と成果の継続的活用の関係についての考察」研究・イノベーション学会 第33回年次大会，2018年10月27日，東京大学本郷キャンパス

和泉章「画像関連の国際標準化及び適合性評価の動向とビジネスや経済に与える影響」画像関連学会連合会 第5回秋季大会，2018年11月17日，京都工芸繊維大学

和泉章「IEC（国際電気標準会議）における特許声明書の提出動向と各国企業等の対応についての考察」日本知財学会 第16回年次学術研究発表会，2018年12月2日，大阪工業大学 梅田キャンパス

和泉章「画像関連の国際標準化組織とその活動について」画像電子学会 第22回国際標準化の活用と教育研究会，2019年1月29日，早稲田大学西早稲田キャンパス

Izumi, Akira, “Validity of an International Standard on Quality Management System for Rail Sector and its Certification on Japanese Rolling Stock Manufacturers,” 24th EURAS Annual Standardization Conference, hosted by the European Academy for Standardization, 13-15 June, 2019, LUISS Guido Carli University, Rome, refereed



江藤 学

■ 履歴

- 1983年 大阪大学基礎工学部卒業
- 1985年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
- 1985年 通商産業省入省
- 1989年 科学技術庁科学技術政策局（～1990年）
- 1994年 米国ニューメキシコ大学客員研究員
- 1995年 筑波大学社会科学系講師（～1997年）
- 2000年 外務省経済協力開発機構日本政府代表部（在パリ）
- 2004年 （独）産業技術総合研究所
- 2006年 経済産業省産業技術環境局 認証課長
- 2006年～ 経済産業研究所 コンサルティングフェロー
- 2008年 博士号（工学） 東北大学
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2011年3月）
- 2011年 日本貿易振興機構ジュネーブ事務所長（～2013年7月）
- 2013年 一橋大学イノベーション研究センター特任教授
- 2016年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

江藤学「標準化人材育成の必要性」『標準化と品質管理』, (一財)日本規格協会, Vol. 71, No. 4, 2018年4月, 4-9頁

江藤学・鷺田祐一「連載 日本発の国際標準化 戦いの現場から(3)-(7)」『一橋ビジネスレビュー』66巻1号～67巻1号, 2018年4月～2019年6月

De Vries, Henk, Kai Jakobs, Tineke Egyedi, Manabu Eto, Stephan Fertig, Olia Kanevskaia, Louise Klintner, Claudia Koch, Ivana Mijatovic, Mona Mirtsch, Piergiuseppe Morone, Marta Orviska, Cesare Riillo and Gianluca Scaramuzzino, “Standardization: Towards an Agenda for Research,” *International Journal of Standardization Research*, Vol. 16, Issue 1, June 2018, pp. 52-59, refereed

尾田基・江藤学「先行者と後発者による新市場理解の相違：電動アシスト自転車の構造化プロセスを事例に」『組織科学』52巻3号, 2019年3月, 33-46頁, 査読有り

Eto, Manabu, “Profit Expansion Method by Standard as an Outbound Open Innovation,” in Jakobs, Kai, ed., *Corporate Standardization Management and Innovation*, IGI Global: PA, USA, Chapter 14, April 2019, pp. 256-275

江藤学「ビジネスケース：メルカリ『世界に通じるサービス』の発想と実現」『一橋ビジネスレビュー』67巻1号, 156-166頁, 2019年6月

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー、ケーススタディ

尾田基・江藤学「地域イノベーションの事例研究：有限会社ヤマコ武田商店」 IIR ケーススタディ CASE#18-01, 2018年5月

清水洋・江藤学・生稲史彦・嶋原盛之「岩谷徹第2回インタビュー前半：ナムコビデオゲーム黎明期の開発体制」 IIR ワーキングペーパー WP#19-05, 2019年2月

清水洋・江藤学・生稲史彦・嶋原盛之「岩谷徹第2回インタビュー後半：ナムコビデオゲーム黎明期の開発体制」 IIR ワーキングペーパー WP#19-06, 2019年2月

江藤学・生稲史彦・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「斉藤利治第1回インタビュー前半：デジタル通信技術とゲーム開発の歴史の証言」 IIR ワーキングペーパー WP#19-21, 2019年2月

江藤学・生稲史彦・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「斉藤利治第1回インタビュー後半：デジタル通信技術とゲーム開発の歴史の証言」 IIR ワーキングペーパー WP#19-22, 2019年2月

小林信也・江藤学「地域イノベーションの事例研究『鹿児島におけるシラスの活用』」 IIR ケーススタディ CASE#19-06, 2019年3月

2.2. 教材

江藤学・辻田美紗・佐々木通孝『教則 標準化とビジネス』国立大学法人山口大学（監修），2018年8月，355頁

3. コンファレンス、学会発表

Eto, Manabu, “The Business Effects of Standardisation for SMEs,” 23rd EURAS Annual Standardization Conference, hosted by the European Academy for Standardization, June 14, 2018, Dublin City University, Ireland, refereed

Eto, Manabu, “Profit Expansion Method by Outbound Open Innovation,” 2018 Portland International Conference on Management of Engineering and Technology (PICMET), August 20, 2018, Honolulu, Hawaii, USA, refereed

江藤学・吉岡（小林）徹「『科学』不足によるイノベーション阻害：ファインパブルの事例」研究・イノベーション学会 第33回年次学術大会，2018年10月28日，東京大学本郷キャンパス

江藤学「特許の藪解消のための非標準必須特許 RAND 宣言の可能性：ナノセルロースフォーラム知財タスクチームでの検討経緯」日本知財学会第16回年次学術研究発表会，2018年12月2日，大阪工業大学梅田キャンパス



大山 睦

■ 履歴

- 1997年 横浜市立大学商学部卒業
- 1999年 慶應義塾大学 修士（経済学）
- 2002年 シカゴ大学 修士（経済学）
- 2008年 ニューヨーク州立大学バッファロー校 Ph.D.（経済学）
- 2008年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 IGB ポスドク研究員
- 2009年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校マネジメント学部講師
- 2010年 北海道大学経済学研究科准教授
- 2015年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年4月 メリーランド大学ロバート・スミス・ビジネススクール 客員研究員
（～2018年3月）

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

大山睦・神林龍・亀田泰佑・川本琢磨・杉原茂「生産性向上に向けたマネジメントのあり方：内閣府『組織マネジメントに関する調査』から」『統計』（一財）日本統計協会，69巻9号，2018年9月，20-29頁

Agarwal, Rajshree, Serguey Braguinsky and Atsushi Ohyama, “Centers of Gravity: The Effect of Stable Shared Leadership in Top Management Teams on Firm Growth and Industry Evolution,” *Strategic Management Journal*, forthcoming, refereed

2. コンファレンス、学会発表

Ohyama, Atsushi, “A Source of Different Management Styles,” Empirical Management Conference, December 18, 2018, Harvard Business School, refereed

Ohyama, Atsushi, “Product Innovation Product Diversification and Firm Growth,” 東京経済大学，応用ミクロ経済学セミナー，2019年3月12日，東京経済大学，招待



軽部 大

■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ，ペンシルベニア大学ウォートンスクール，2007年12月まで）
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文，本の1章

軽部大・内田大輔「ビジネスケース： パナソニック無錫松下冷機の挑戦と進化」『一橋ビジネスレビュー』66巻2号，2018年9月，150-163頁

1.2. その他

軽部大「意思決定のあり方、変える視点を」『朝日新聞』2019年4月21日，朝刊 オピニオン9面「（フォーラム）カイシャの会議：1 何も決まらない」

2. コンファレンス、学会発表

Karube, Masaru, Hironori Fukukawa and Daisuke Uchida, “Unequal Punishment for Professionals: How Audit Firms Respond to Their Accountants' Misconduct in Financial Statements,” 41st Annual Congress of European Accounting Association, June 1, 2018, Bocconi University, Milan, Italy, refereed

Karube, Masaru, Daisuke Uchida and Ilir Haxhi, “When and How CEO and Professionals Pull the Plug on their Relationship? Exploring Dissolution of Client-Auditor Relationship for the Post IPO Firms, 2018 Babson College Entrepreneurship Research Conference (BCERC), June 7, 2018, Waterford Institute of Technology, Waterford, Ireland, refereed

Karube, Masaru, Daisuke Uchida and Hironori Fukukawa, “Unequal Punishment for Professionals: How Audit Firms Respond to Their Accountants' Misconduct in Financial Statements, EURAM 18 ‘Research in Action’, hosted by European Academy of Management, June 21, 2018, University of Iceland, Reykjavik, Iceland, refereed

Karube, Masaru, Uchida Daisuke and Haxhi Ilir, “Understanding Post-IPO Struggles: Evidence from Japanese Startups,” 78th Annual Meeting of the Academy of Management, August 14, 2018, Chicago, Illinois, USA, refereed

Karube, Masaru and Hironori Fukukawa, “Unequal Punishment for Professionals: How Audit Firms Respond to Their Accountants' Misconduct in Financial Statements,” Asia Trilateral Seminar, co-hosted by Hitotsubashi University Business School, Korea University Business School and Peking University HSBC Business School, September 11, 2018, Saho-shoin Hall, Hitotsubashi University



カン ビョンウ

■ 履歴

- 2006年 東北大学工学部卒業
- 2008年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 2008年 LG Electronics 研究員（～2011年）
- 2014年 東京大学大学院 Ph.D.（技術経営戦略学）
- 2014年 アジア経済研究所研究員（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2019年～一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Dang, Jianwei, Byeongwoo Kang and Ke Ding, “International Protection of Standard Essential Patents,” *Technological Forecasting and Social Change*, Vol. 139, February 2019, pp. 75–86, refereed

カン・ビョンウ, 佐々木大輔「freee：起業にいたる転職キャリア形成」『一橋ビジネスレビュー』66巻4号, 2019年3月, 8-18頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Kang, Byeongwoo, “Innovation Processes in Public Research Institutes: Case of AIST, Fraunhofer, and ITRI,” WIAPS Discussion Paper Series No. 2018-E-1, January 2019

Kang, Byeongwoo and Kazuyuki Motohashi, “Funding Sources and the Academic Contribution to Technological Knowledge Development: Evidence from Japan,” NISTEP Discussion Paper No. 161, October 2018

3. コンファレンス、学会発表

Kang, Byeongwoo and Ashish Bharadwaj, “How Does Innovation Occur in India? Evidence from the JIRICO Survey,” the 17th International Shumpeter Society Conference, July 2-4, 2018, Seoul National University, Seoul, Korea, refereed

Kang, Byeongwoo and Kazuyuki Motohashi, “Funding Sources and the Academic Contribution to Technological Knowledge Development: Evidence from Japan,” NISTEP Workshop, August 1, 2018, NISTEP, Tokyo

Kang, Byeongwoo, Discussion on “Technological Diversity and Firm Performance: The Moderating Role of Technological Opportunity and Network Position,” Conference on China’s Innovation System: Understanding Complex System by New Data, November 4, 2018, Tongji University, Shanghai, China

4. 受賞

Young Scholars Award 2018, the International Schumpeter Society, Article Title: How Does Innovation Occur in India? Evidence from the JIRICO Survey, July 2018



清水 洋

■ 履歴

- 1997年 中央大学商学部卒業
- 1999年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 2002年 ノースウェスタン大学大学院歴史学研究科修士課程修了
- 2007年 Ph.D. (経済史) ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス
- 2007年 アイントホーヘン工科大学 (オランダ) ポストドクトラルフェロー
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2011年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター教授 (～2019年3月)
- 2019年～ 早稲田大学商学学術院教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

Shimizu, Hiroshi, *General Purpose Technology, Spin-out, and Innovation: Technological Development of Laser Diodes in the United States and Japan*, Springer: Singapore, May 2019, 312 pages

1.2. 論文, 本の1章

新田隆司・山口翔太郎・清水洋「ビジネスケース：ベネッセアートサイト直島 コーポレートアイデンティティと地域振興」『一橋ビジネスレビュー』, 66巻4号, 110-123頁, 2019年3月

清水洋・山口健俊・山崎敦義「TBM：社会的な課題をビジネスに転換するグリーン・アントレプレナー」『一橋ビジネスレビュー』 66巻4号, 34-46頁, 2019年3月

1.3. その他

清水洋・山口翔太郎・金東勲「イノベーションと流動性」『証券アナリストジャーナル』 56巻6号, 6-15頁, 2018年6月

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Yamaguchi, Shotaro, Ryuji Nitta, Yasushi Hara and Hiroshi Shimizu, “Staying Young at Heart or Wisdom of Age: Longitudinal Analysis of Age and Performance in US and Japanese Firms,” IIR Working Paper WP#18-41, June 2018

清水洋・福田一史・井上明人・嶋原盛之・松井彩子「猪瀬祥希第1回インタビュー前半：テカン～テクモ時代のゲーム開発」IIR ワーキングペーパー WP#18-44, 2018年12月

清水洋・福田一史・井上明人・嶋原盛之・松井彩子「猪瀬祥希第1回インタビュー後半：テカン〜テクモ時代のゲーム開発」IIR ワーキングペーパー WP#18-45, 2018年12月

清水洋・嶋原盛之・山口翔太郎「佐藤秀樹第4回インタビュー前半：セガのゲーム開発の歴史と社風」IIR ワーキングペーパー WP#19-01, 2019年1月

清水洋・嶋原盛之・山口翔太郎「佐藤秀樹第4回インタビュー後半：セガのゲーム開発の歴史と社風」IIR ワーキングペーパー WP#19-02, 2019年1月

清水洋・江藤学・生稲史彦・嶋原盛之「岩谷徹第2回インタビュー前半：ナムコビデオゲーム黎明期の開発体制」IIR ワーキングペーパー WP#19-05, 2019年2月

清水洋・江藤学・生稲史彦・嶋原盛之「岩谷徹第2回インタビュー後半：ナムコビデオゲーム黎明期の開発体制」IIR ワーキングペーパー WP#19-06, 2019年2月

清水洋・井上明人・嶋原盛之・松井彩子「大橋太郎第3回インタビュー前半：電波新聞社のゲームソフトとグッズの流通、および販売についての証言」IIR ワーキングペーパー WP#19-19, 2019年2月

清水洋・井上明人・嶋原盛之・松井彩子「大橋太郎第3回インタビュー後半：電波新聞社のゲームソフトとグッズの流通、および販売についての証言」IIR ワーキングペーパー WP#19-20, 2019年2月



中島 賢太郎

■ 履歴

- 2003年 東京大学経済学部卒業
- 2008年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士（経済学）
- 2008年 東北大学大学院経済学研究科
地域経済金融論寄附講座（七十七）准教授
- 2010年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター准教授
- 2011年 東北大学大学院経済学研究科准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Nakajima, Kentaro and Tetsuji Okazaki, “The Expanding Empire and Spatial Distribution of Economic Activities: The Case of Japan’s Colonization of Korea during the Pre-war Period,” *Economic History Review*, Vol. 71, Issue 2, May 2018, pp. 593-616, refereed

中島賢太郎「運輸と地域経済」深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座 日本経済の歴史 6 現代 2』岩波書店, 第5章第3節, 2018年5月, 所収, 275-287頁

中島賢太郎「市場近接性と経済活動」『住宅土地経済』110巻, 2018年10月, 22-27頁

Inoue, Hiroyasu, Kentaro Nakajima and Yukiko Umeno Saito, “Localization of Collaborations in Knowledge Creation,” *The Annals of Regional Science*, Vol. 62, No. 1, February 2019, pp. 119-140, refereed

Gokan, Toshitaka, Ikuo Kuroiwa and Kentaro Nakajima, “Agglomeration Economies in Vietnam: A Firm-Level Analysis,” *Journal of Asian Economics*, vol.62, June 2019, pp.52-64, <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S104900781830157X?via%3Dihub>, refereed

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Nakajima, Kentaro and Kensuke Teshima, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” RIETI Discussion Paper Series, 18-E-044, July 2018

3. コンファレンス、学会発表

Nakajima, Kentaro, “Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors,” Society of Labor Economists Annual Meeting, May 5, 2018, Toronto, Canada, refereed

Nakajima, Kentaro, “The Impact of High-Speed Rail on Innovation,” 日本経済学会 2018年度春季大会, 2018年6月9日, 兵庫県立大学, 査読有

Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” Society of Economic Dynamics Annual Meeting, June 29, 2018, Mexico City, Mexico, refereed

Nakajima, Kentaro, “Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors,” 東京労働経済学研究会, 2018年7月6日, 東京大学招待

Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” ポリシーモデリングワークショップ, 2018年7月14日, 政策研究大学院大学, 招待

Nakajima, Kentaro, “Estimating the Impact of Building Height Restrictions on Land Price,” Kyoto Summer Workshop on Applied Economics, August 4, 2018, Kyoto University, invited

中島賢太郎「都市とイノベーション（特別報告）」日本経済学会 2018年度秋期大会, 2018年9月8日, 学習院大学, 招待

Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” 経済学セミナー, 2018年9月21日, 東京理科大学, 招待

Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” GRIPS/U-Tokyo Applied Economics Workshop, 2018年10月24日, 政策研究大学院大学, 査読有

Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” 商学部金曜セミナー, 2018年10月26日, 早稲田大学, 招待

Nakajima, Kentaro, “The Impact of High-Speed Rail on Innovation,” ADB Institute Conference, 2018年11月14日, アジア開発銀行研究所 (ADB), 査読有

Nakajima, Kentaro, “Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors,” 関西労働経済学研究会, 2018年11月16日, 大阪大学, 招待

Nakajima, Kentaro, “Supply Elasticity of Housing Market in Japan,” 第32回応用地域学会 (ARSC) 研究発表大会, 2018年12月1日, 南山大学名古屋キャンパス, 査読有

Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” 近経研究会, 2019年1月17日, 横浜国立大学, 招待

Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” 経済学研究会，2019年1月24日，北海道大学，招待

Nakajima, Kentaro, “Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors,” 土曜研究会，2019年1月25日，小樽商科大学，招待

Nakajima, Kentaro, “Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors,” 9th European Meeting of the Urban Economics Association,” May 31-June 1, 2019, Vrije Universiteit Amsterdam, Amsterdam, refereed



延岡 健太郎

■ 履歴

- 1981年 大阪大学工学部卒業
- 1981年 マツダ株式会社（～1989年）
- 1988年 M.B.A.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1993年 Ph.D.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1994年 神戸大学経済経営研究所助教授
- 1999年 神戸大学経済経営研究所教授
- 2001年 博士（経営学）神戸大学
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2018年9月）
- 2012年 一橋大学イノベーション研究センター長（～2018年3月）
- 2018年～ 大阪大学大学院経済学研究科教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

延岡健太郎・松岡完「自動車の顧客価値：意味的価値の変化動向と国際比較」『一橋ビジネスレビュー』66巻2号，2018年9月，108-123頁

延岡健太郎・白哲綸「ビジネス・ケース：Gogoro 電動スマートスクーターのイノベーション」『一橋ビジネスレビュー』66巻3号，2018年12月，90-106頁

1.2. その他

延岡健太郎「SEDA モデルで実現する顧客価値イノベーション」『DIAMOND Quarterly』，2018年春号，2018年4月，4-13頁



米倉 誠一郎

■ 履歴

- 1977年 一橋大学社会学部卒業
- 1979年 一橋大学経済学部卒業
- 1981年 一橋大学大学院社会学研究課修士課程修了
- 1982年 一橋大学大学院社会学研究課博士課程から一橋大学商学部産業経営研究所助手
- 1984年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1988年 一橋大学産業経営研究所助教授
- 1990年 Ph. D. (歴史学) ハーバード大学
- 1995年 一橋大学産業経営研究所教授
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター教授 (～2017年3月)
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター長 (～2001年3月)
- 2003年 ソニー株式会社グローバル・ハブ・インスティテュート・オブ・ストラテジー,
コ・プレジデント (～2004年3月)
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター長 (～2012年3月)
- 2012年 プレトリア大学ビジネススクール (GIBS) 日本研究センター所長 (～2015年3月)
- 2015年～ プレトリア大学日本研究センター顧問
- 2017年4月 一橋大学イノベーション研究センター特任教授 (～2019年3月)
- 2017年4月～ 一橋大学名誉教授
- 2017年4月～ 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

米倉誠一郎『松下幸之助：きみならできる、必ずできる』ミネルヴァ書房，2018年9月，
280頁

1.2. その他

米倉誠一郎「かくしてアジア最速のイノベーションは実現した」『歴史街道』2018年4月号，
24-27頁

米倉誠一郎「明治を創造したイノベーターたち」『Wedge』2018年6月号

米倉誠一郎・前澤優太・阪根信一「セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ：世の中にな
いものを創り出す」『一橋ビジネスレビュー』66巻4号，2019年3月，48-63頁

2. コンファレンス、学会発表

米倉誠一郎「イノベーションは辺境から」組織学会定例会2018丸の内，2018年5月9日，
東京，招待

2. 兼任研究員——2018年度

■ 岡室 博之

一橋大学大学院経済学研究科 教授

■ 仮屋 広郷

一橋大学大学院法学研究科 教授

■ 楠木 建

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

■ 西野 史子

一橋大学大学院社会学研究科 准教授

■ 深尾 京司

一橋大学経済研究所 教授

■ 福川 裕徳

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

3. 外国人研究員（客員）——2018年度

■ ヘンマート・マルティン HEMMERT, Martin

Professor, School of Business, Korea University

研究テーマ「イノベーション・システムとマネジメント・システムの国際比較研究、技術提携、
企業家精神」

2018年9月3日～2019年1月30日

III. 教育活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 講義——2018年度

IIR 教員による講義の概要は以下の通りである。

■ 大学院経営管理研究科の講義

1. 研究者養成コース

「イノベーション経営特論」／「イノベーション経営研究」秋冬学期 2 単位 軽部大
イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「イノベーション経済特論」／「イノベーション経済研究」秋冬学期 2 単位 大山睦
イノベーションの役割について経済学の視点から考察し、イノベーションの経済分析における基本理論と実証分析技術の修得を目指す。専門書や学術論文を理解する能力を養い、研究する為の基礎的な力を身につける事を目的とし、特に、授業を通じて、実証分析の手法を身につける事を主目的とする。ミクロ経済学と計量経済学を分析手法として用いて、イノベーション分野の研究においてそれらを応用できる力を養う事を到達目標とする。具体的には、理論的考察から仮説を導き、それをもとに実証分析の枠組みを構築し、データを使ってテストできる能力を身につける。実証分析の手法を身に付け、様々な経済・経営問題に応用できるようにする。

「知的財産特論」／「知的財産研究」春夏学期 2 単位 江藤学、和泉章
特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権等の知的財産権法や不正競争防止法の制度や運用、さらに技術に関する国際標準化や認証（適合性評価）の仕組みや実態、標準必須特許について基礎的な素養を得る。経済産業省行政官の業務経験を生かした講義に加えて、特許データベースの活用や、知的財産に関する最新の学術研究についても紹介する。

「アントレプレナーシップ特論」／「アントレプレナーシップ研究」

春夏学期 2 単位 大山睦

アントレプレナーシップを広義に捉え、経済学の視点から考察し、アントレプレナーシップ研究における基本理論と実証分析技術の修得を目指す。専門書や学術論文を理解する能力を養い、研究する為の基礎的な力を身につける事を目的とし、特に、授業を通じて、実証分析の手法を身につける事を主目的とする。ミクロ経済学と計量経済学を分析手法として用いて、アントレプレナーシップ分野の研究においてそれらを応用できる力を養う事を到達目標とする。具体的には、理論的考察から仮説を導き、それをもとに実証分析の枠組みを構築し、データを使ってテストできる能力を身につける。実証分析の手法を身に付け、様々な経済・経営問題に応用できるようにする。

「先端科学技術とイノベーション」秋冬学期2単位 青島矢一、中島賢太郎

経済社会への影響を考慮せずに現実性のある研究を行うことは難しくなっている。政策立案に関係する研究であれば、それはなおさらのことである。社会科学者であっても現実社会に有益な知見をもたらす研究を行うためには、自然科学の発展を深く理解することが必要である。そこで本授業では、社会に大きな影響を与えてきた、また、与えつつある先端科学技術の重要領域を4つから5つとりあげて、最先端のイノベーションの事例を紹介するとともに、その社会科学的な意義を議論する。

「イノベーションと政策・制度」秋冬学期2単位 江藤学、和泉章

政策や制度がイノベーションに与える影響を知り、イノベーションを起こすツールとして政策や制度を使いこなしたり、新しい政策や制度を立案したりする能力を獲得し、イノベーション研究者・実務者としての基礎的素養とする。政策や制度がどのように作成され、施行され、社会を変革しているかを予測するための基礎的知識と思考能力を獲得する。

「イノベーションと経営・経済・政策」

春夏学期2単位 青島矢一、江藤学、中島賢太郎

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義。イノベーション研究の全体像及び各論の基礎的な知識を身に着ける。

「イノベーション研究方法論」

春夏学期2単位 青島矢一、江藤学、中島賢太郎、吉岡（小林）徹

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義。

イノベーションの研究方法論についての基礎的な概念、視点、理論などを身に着けることを目的とする。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位 青島矢一、江藤学

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位 青島矢一、江藤学

「演習」通年6単位

青島矢一、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、清水洋、中島賢太郎

「副演習」通年4単位

青島矢一、和泉章、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、清水洋、中島賢太郎

2. MBA コース

「経営組織」秋冬学期2単位 青島矢一

企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことであり、そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「ワークショップ：経営C」通年6単位 清水洋

「導入ワークショップA」春夏学期2単位 軽部大

「基礎ワークショップA」秋冬学期2単位 軽部大

3. HSEP（一橋シニアエグゼクティブプログラム）

新第17・18クール

清水洋：

セッション3：「企業家を招く」2018年12月14日

青島矢一：

セッション5：「私の経営者研究」2019年3月8日・15日

新第18クール

青島矢一：

セッション2：「戦略思考レクチャー」2018年10月19日

セッション3：「戦略失敗についての自社ケース」2018年12月13日・14日

4. EPSON（経営リーダー育成プログラム）

第4クール

青島矢一：「技術戦略・イノベーション論」2018年10月5日・6日

■ 商学部の講義

「イノベーション・マネジメント」春夏学期2単位 清水洋

イノベーションについての基本的な事項を理解した上で、それをどのようにマネジメントしていくのかについての基本的な考え方を身につけることを目標とする。

「イノベーション経済特論」秋冬学期2単位 大山睦

イノベーションの役割について経済学の視点から考察し、イノベーションの経済分析における基本理論と実証分析技術の修得を目指す。専門書や学術論文を理解する能力を養い、研究する為の基礎的な力を身につける事を目的とし、特に、授業を通じて、実証分析の手法を身につける事を主目的とする。ミクロ経済学と計量経済学を分析手法として用いて、イノベーション分野の研究においてそれらを応用できる力を養う事を到達目標とする。具体的には、理論的考察から仮説を導き、それをもとに実証分析の枠組みを構築し、データを使ってテストできる能力を身につける。実証分析の手法を身に付け、様々な経済・経営問題に応用できるようにする。

「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位 軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「ビジネス・エコノミクス基礎」秋学期2単位 大山睦

ミクロ経済学の理論的枠組みを用いて、消費者や企業の様々な行動を理論的に考察する。企業行動に関する理論を主に学び、現実の経済問題に経済理論を応用できる力を養うことが、本コースの主目的となっている。本コースのキーワードは、産業組織論、価格戦略、製品差別化戦略、情報の非対称性、イノベーションである。

"Interactive Course on Business Basics (Management)" 春学期2単位 Joel B. Malen

The Interactive Course on Business Basics builds on and further develops key concepts and issues relevant to the management of organizations presented in the first-year Introduction to Management course (経営学概論). The purpose of this course is to enable students to more effectively recognize, understand and respond to some common challenges that practicing managers confront. Although some new material will be presented in the class, the emphasis is strongly on application of concepts and frameworks. In line with the interactive format, substantial class time will be devoted to discussion, case analysis, in-class exercises and student presentations. Actively engaging with the material in the classroom is intended to provide students with a clearer sense of how fundamental managerial activities that they have previously encountered conceptually translate into the actual practice of running a firm. The course material is organized around four primary functions that managers perform within the firm: planning, organizing, leading and controlling. Each of these functions is explored in greater depth through relation to topics students have previously covered, such as strategic planning or marketing. A common feature of real-world management is that

successfully performing any of the primary functions or specific tasks associated with those functions often requires consideration of the effects that changes and strategies will require or precipitate throughout the organization. Accordingly, through application of the material to real world examples, students will develop an appreciation for how topics they have previously studied influence real world organizations both directly and in conjunction with other functions, and components of the organization. Understanding how the different pieces of the organizational puzzle fit and, more importantly, work together will enable students to develop a more holistic understanding of the organization and the functions managers must perform within it.

"Advanced Course in Management" 春学期 2 単位 Joel B. Malen

Advanced Topics in Commerce and Management I: Environmental Management and Strategy

Today, firms around the world are increasingly being held to account for the impact that their business activities have on the natural environment. Global warming, the accumulation of toxins in the environment, the recycling of material waste are just a few of the myriad issues for which firms' customers, governments and other stakeholders are demanding action. These demands create both challenges and opportunities for businesses. The objective of this course is to provide students with effective tools for managing the firm in context of increasing societal demands to improve environmental performance. The course will make extensive use of case studies related to the impact of business activities on the natural environment. At the end of the course, students will be able to 1. recognize how business activities affect the natural environment; 2. identify challenges and opportunities that those impacts create for firms and 3. develop management strategies capable of effectively addressing a range of environmental issues.

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅰ」 春夏学期 2 単位

大山睦、カン・ビョンウ、清水洋

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅱ」 秋冬学期 2 単位

大山睦、カン・ビョンウ、清水洋

「導入ゼミナールⅠ」 春夏学期 2 単位 カン・ビョンウ、中島賢太郎

「導入ゼミナールⅡ」 秋冬学期 2 単位 中島賢太郎

「演習」 通年 4 単位 青島矢一、大山睦、軽部大、清水洋、中島賢太郎

2. イノベーションマネジメント・政策プログラム——2018年度

■ 概要

イノベーションマネジメント・政策プログラム（Innovation Management and Policy Program：IMPP）は、経営学や経済学を中心とする社会科学の知識を身につけながら、①イノベーションのマネジメント、または、イノベーションを促す政策形成や制度設計に関連するテーマで独自の研究論文を仕上げ、学術的なフロンティアを開拓するとともに、②民間組織におけるイノベーションのマネジメントや公的機関における科学技術イノベーション政策の形成に対して適切かつ重要な影響力をもちうる研究人材を養成することを目的とした、博士レベルのサーティフィケートプログラムである。日本および国際社会がイノベーションを生み出す能力を強化もしくは向上させる上での学術的基盤を担う人材の育成を行う、教育（教員からの学術的知識の習得）と研究（教員との研究の実施）が一体化したプログラムとなっている。

本プログラムは、文部科学省科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点事業（領域開拓拠点）による補助を受け運営している。

■ 受講者

本プログラムには、一橋大学大学院博士課程に所属する学生その他、他大学の博士課程の学生、ポストドクトラルフェロー、その他、社会人を含む修士課程修了者（もしくは、修士課程修了に相当する者）が参加可能であり、カリキュラムは、水曜日の夜と土曜日開講の授業、夏期の集中講義を中心に構成されている。

本プログラムを修了するには、「イノベーションリサーチセミナー」、「必修科目」（3科目）、「選択必修科目」（2科目）の受講に加えて、論文2本の提出が必要となる。

■ 実績

2018年度在学生 31名

	2017 年度入学	2018 年度入学
社会人学生	5 名	7 名
一橋大学博士後期課程学生	3 名（1 名）	3 名（3 名）
その他（再入学者含む）	1 名	1 名

（）内は経営管理研究科の学生

■ 2018年度の主な行事

6 月 9 日から 6 月 10 日	【学会発表（学生 2 名）】 組織学会 2018 年度研究発表大会 会場：東京大学経済学部
8 月 19 日から 8 月 23 日	【学会発表（学生 4 名）】 PICMET '18 Conference 会場：Waikiki Beach Marriott Resort & Spa, Honolulu, Hawaii, USA
8 月 25 日から 8 月 26 日	IIR サマースクール 2018 会場：一橋大学 佐野書院
8 月 28 日から 8 月 30 日	SciREX 拠点間合同サマーキャンプ 2018 会場：政策研究大学院大学
10 月 27 日から 10 月 28 日	【学会発表（学生 4 名）】 研究・イノベーション学会 第 33 回年次学術大会 会場：東京大学 本郷キャンパス

■ 講義

必修科目

「イノベーション研究方法論」 春夏学期 2 単位

青島矢一／江藤学

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義を行う。

「イノベーションと経営・経済・政策」 春夏学期 2 単位

青島矢一／江藤学

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義を行う。

「先端科学技術とイノベーション」 秋冬学期 2 単位

青島矢一

社会学者と最先端の技術者・研究者の組み合わせによるオムニバス形式の講義を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」 春夏学期 2 単位

青島矢一／江藤学

関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」 秋冬学期 2 単位

青島矢一／江藤学

関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

選択必修科目は経営管理研究科（研究者養成コース）と共通（Ⅲ -1. 参照）

「知的財産研究」 春夏学期 2 単位 江藤学、和泉章

「イノベーションの経済分析」 秋冬学期 2 単位 大山睦

「イノベーション・マネジメント」 秋冬学期 2 単位 軽部大

「イノベーションと政策・制度」 秋冬学期 2 単位 江藤学、和泉章

IV. 研究成果および刊行物

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 一橋ビジネスレビュー——2018年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』（東洋経済新報社発行）としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供する、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する。また、2007年度よりフロア参加者を募り、年1回程度、「一橋ビジネスレビュー・フォーラム」を開催。第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。今年度は、「革新を起こすリーダーシップ：“イノベーション創出” VS “働き方改革”」と題して開催された。

■ 編集顧問

野中郁次郎（一橋大学名誉教授）

柳井正（株式会社ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長）

山海嘉之（筑波大学教授／サイバニクス研究センター長／サイバーダイナ株式会社 CEO）

■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長） 青島矢一 和泉章 江藤学 大山睦 加賀谷哲之 加藤俊彦
軽部大 カン・ビョンウ 楠木建 島貫智行 清水洋 中島賢太郎 中野誠 沼上幹
野間幹晴 林大樹 藤川佳則 藤原雅俊 松井剛 鷺田祐一

学外

浅川和宏（慶應義塾大学） 浅羽 茂（早稲田大学） 生稲史彦（筑波大学） 糸久正人（法政大学） 金井壽宏（神戸大学） 栗木 契（神戸大学） 國領二郎（慶應義塾大学） 榊原清則（中央大学） 清水勝彦（慶應義塾大学） 鈴木竜太（神戸大学） 武石 彰（京都大学） 長岡貞男（東京経済大学） 楡井 誠（東京大学） 延岡健太郎（大阪大学） 藤本隆宏（東京大学） 守島基博（学習院大学） 米山茂美（学習院大学） M. Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国） M. Kenney（カリフォルニア大学デービス校 米国） 李 亨五（淑明女子大学校 韓国） 徐 正解（慶北大学校 韓国）



■『一橋ビジネスレビュー』 第66巻1号 2018年6月

○特集『「新しい働き方」の科学』

いまや社会的な課題となっている「働き方」の問題を、社会科学の立場から冷静に捉え直すことを試みる。社会学、経済学、心理学、そして経営学の4領域の研究者がそれぞれの立場から議論することで、(1)「働き方」を変えることがなぜ難しいのか、その問題の構造を明らかにし、その上で(2)既存の議論が見落としているいくつかの課題や論点を明確にして、(3)この問題を解くためには、しっかりとした方法論に基づいて収集されるエビデンスに基づいた議論が必要である、ということを明らかにしたい。

○特集論文

服部泰宏「多様化する働き方と心理的契約のマネジメント」

山本勲「女性活躍を推進する働き方と企業業績：上場企業パネルデータを用いた検証」

深澤孝太郎／南條佑太／木村華子／都築成果「性別役割分業観と女性の昇進意欲」

坂爪洋美「部下の性別による管理職行動の違いと働き方にかかわる人材マネジメントの影響」

直林実咲／澤島千隼／谷岡凌「残業時間と職務ストレスの決定要因」

森永雄太「チーム単位健康増進施策と従業員のウェルビーイング」

常見陽平「ニュースサイトビジネスに見る『新しい働き方』のリアル」

○「技術経営のリーダーたち」(33) /インタビュー 延岡健太郎・青島矢一

西城洋志（ヤマハ・モーター・ベンチャーズ・アンド・ラボラトリー・シリコンバレー CEO 兼 マネージングディレクター）

「シリコンバレーから創りたい未来を発信する」

○連載

江藤学／鷲田祐一「日本発の国際標準化 戦いの現場から (3)：サービスの国際標準化とアクセシビリティ」

野間幹晴／藤田勉「フィンテック革命とイノベーション (4)：仮想通貨の不正事件とICOの法規制」

井上達彦「ビジネスモデルを創造する発想法 (8)：事業創造はサイエンスかアートか」

○ビジネス・ケース

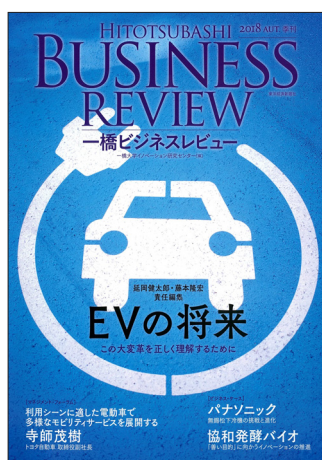
鈴木智子「8 番らーめん：大衆のための日本式らーめんの海外展開」

科部元浩「第48次南極地域観測隊／夏期：専門職集団のグループダイナミクス」

○マネジメント・フォーラム /インタビュー 米倉誠一郎

藤田晋／曾山哲人（株式会社サイバーエージェント 代表取締役社長／株式会社サイバーエージェント 取締役 人事統括）

『「実力主義型終身雇用制」で、内部人材の力を最大限に引き出す』



■『一橋ビジネスレビュー』 第66巻2号 2018年9月

○特集「EV の将来」

自動車のEV（電気自動車）化が急速に進みつつあり、自動運転やシェアリング、ネットワーク化などとあわせて、自動車産業が100年に一度の大変革を迎えているとの報道が増えている。

ただし、EVに関して、技術的变化、顧客価値やビジネスモデルへの影響などについての認識や主張は、個人や企業によって差異があり、事実を誤認または歪曲した意見も少なくない。真に環境にとってベストといえるポートフォリオのあり方、アーキテクチャーの変化、顧客価値や所有とシェアリングの選択への影響など、冷静かつ客観的な事実に基づいた議論が必要とされている。本特集では、これらを正しく理解するために手引きとなる論考を展開する。

○特集論文

大聖泰弘「自動車の環境・エネルギー技術に関する将来展望：電動化の動向を見据えて」

佐藤登「自動車の電動化を取り巻く業界動向と問われる競争力」

長島聡「欧州発『CASE』の大波の行方：日本勢で主導したい新たな移動社会」

柯隆／河野英子「中国自動車産業の発展戦略と課題：さまようEV開発戦略の行方」

藤原清志／本橋真之「自動車企業が考えるEV化のあるべき姿：マツダが考える理想のEV社会」

藤本隆宏「次世代型低燃費自動車のアーキテクチャ分析：その多様化の可能性」

延岡健太郎／松岡完「自動車の顧客価値：意味的価値の変化動向と国際比較」

○「技術経営のリーダーたち」(34) / インタビュアー 藤本隆宏・延岡健太郎・青島矢一

磯部博樹（日産自動車株式会社 第一製品開発本部 アライアンス グローバル ディレクター）

「元・燃料システム設計者が考えるエンジンのない車の未来」

○特別インタビュー 「フォルクスワーゲン元・技術開発担当役員 ウルリッヒ・ハッケンベルク氏」

○マネジメント・フォーラム / インタビュアー 米倉誠一郎・延岡健太郎・藤本隆宏

寺師茂樹（トヨタ自動車株式会社 取締役副社長）

「利用シーンに適した電動車で多様なモビリティサービスを展開する」

○ビジネス・ケース

軽部大／内田大輔「パナソニック：無錫松下冷機の挑戦と進化」

西原（廣瀬）文乃「協和発酵バイオ：『善い目的』に向かうイノベーションの推進」

○連載

野間幹晴／藤田勉「フィンテック革命とイノベーション（5）：フィンテックで変わる会計・監査と企業統治」

江藤学／鷺田祐一「日本発の国際標準化 戦いの現場から（4）：光触媒技術：日本発の発明を世界に普及させる苦難」

○特別寄稿 中野勉

「マイルス・デイヴィスは現れるか：ハイエンドオーディオ市場におけるプラグマティックな価値評価」

○私のこの一冊 糸久正人「常識を覆し、本質を問う：エリヤフ・ゴールドラット『ザ・ゴール』」



■『一橋ビジネスレビュー』 第66巻3号 2018年12月

○特集『「新しい営業」の科学』

営業は身近な活動である。日本の多くの企業には営業を担当する部署があり、多くの人が営業という業務に従事している。

では、私たちは営業という活動をどれほど理解しているのだろうか。少なくとも研究者にとって営業活動はわからないことが多く、いまだに営業の実践から学ばなければならない。そのためには、データや事例をより多く集めることはもちろんだが、営業について語るための言葉（概念）、見方や枠組み（モデル）を増やし、営業を理解する準備も進めなければならない。

本特集では、身近さと未知が共にある営業活動を、営業の現場で起こる現象そのものから明らかにしようと意図した。

○特集論文

野部剛／小松弘明／生稲史彦「現場から見た日本企業の営業」

稲水伸行／佐藤秀典「セールス研究の現状と営業研究の課題：18のメタ分析論文のレビュー」

稲水伸行／鎗木幸臣「データから見えてくる日本の営業」

山城慶晃「営業活動における組織能力向上：組織ルーティンの形成とその移転」

小菅竜介「価値共創型営業への道筋」

伊達洋駆／山本勲「AI は営業担当者の働き方をどのように変えるか」

○ビジネス・ケース

延岡健太郎／白哲綸「Gogoro：電動スマートスクーターのイノベーション」

佐々木肇／西原友里子「英國屋：中小企業の事業承継とリーダーシップ」

○随想

野中郁次郎「現象学的経営学に向けて」

○連載

野間幹晴／藤田勉「フィンテック革命とイノベーション（6）：フィンテック革命と世界の金融機関の経営」

江藤学／鷲田祐一「日本発の国際標準化 戦いの現場から（5）：ナノテクノロジー：産業利用と安全のバランス」

○マネジメント・フォーラム /インタビュー 米倉誠一郎

出雲充（株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 CEO）

「ベンチャーの使命は、ピカピカのケースを見せることにある」

○私のこの一冊

松井剛「反マーケティングを標榜する雑貨店店主の不可思議な物語：長谷川義太郎『キッチンモノから すてがたきモノまで 文化屋雑貨店』」



■『一橋ビジネスレビュー』 第66巻4号 2019年3月

○特集「NEXT ユニコーン」

日本にも「NEXT ユニコーン」と呼ばれる新しいスタートアップが出現してきている。上場前にすでに時価総額が1000億円を突破する企業群をユニコーンと呼ぶが、ユニコーンの予備軍が、100億円以上の企業価値を持つ NEXT ユニコーンである。彼らはこれまでのベンチャー企業とは一線を画する事業戦略や経営資源動員を可能としているように見える。本特集では、日本におけるユニコーンや NEXT ユニコーンを、創業者自身と研究者が共同執筆者となって創業の経緯と経営資源の動員の手法から分析し、21世紀の日本経済を牽引する企業のあり方について一定の展望を提供することを試みたい。

○特集論文

カン・ピョンウ／佐々木大輔「free：起業に至る転職キャリア形成」

島本実／小林信也／松本恭攝「ラクスル：日本型起業エコシステムの展望」

清水洋／山口健俊／山崎敦義「TBM：社会的な課題をビジネスに転換するグリーン・アントレプレナー」

米倉誠一郎／前澤優太／阪根信一「セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ：世の中にないものを創り出す」

和泉章／〔協力〕吉田博一「エリーパワー：卓越したテクノロジーマネジメントによるリチウムイオン蓄電システムの事業化」

○連載

鈴木智子「全員経営のブランドマネジメント (1)：ブランドがなぜ、今、重要なのか」

江藤学／鷲田祐一「日本発の国際標準化 戦いの現場から (6)：太陽光発電：台頭する中国と、日本・諸外国の対応」

野間幹晴／藤田勉「フィンテック革命とイノベーション (7)：フィンテック企業と伝統的金融機関の経営」

○ビジネス・ケース

新田隆司／山口翔太郎／清水洋

「ベネッセアートサイト直島：コーポレートアイデンティティと地域振興」

河野英子／大沼雅也／福島 路／青木成樹／竹内竜介／高石光一

「日本光電工業：AEDの開発・事業化プロセス」

○第18回 ポーター賞 大藺恵美「ポーター賞受賞企業に学ぶ」

○マネジメント・フォーラム /インタビューー 米倉誠一郎

アニス・ウツザマン (フェノックス・ベンチャーキャピタル 共同代表パートナー兼 CEO)

「日本のイノベーションはこうして取り戻せ」

○私のこの一冊 高橋広行『実学としてのマーケティング』現場に役立つ学問のために！：石原武

政『「論理的」思考のすすめ—感覚に導かれる論理』

2. ワーキングペーパー——2018年度

イノベーション研究センターでは、個人または共同研究の過程で明らかになった最新の成果をワーキングペーパーとしてタイムリーに発表している ([http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did\[\]=2&cid\[\]=6&cid\[\]=7&s=dd&ppc=20](http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did[]=2&cid[]=6&cid[]=7&s=dd&ppc=20))。

- | | |
|----------|--|
| WP#18-41 | Yamaguchi, Shotaro, Ryuji Nitta, Yasushi Hara and Hiroshi Shimizu, “Staying Young at Heart or Wisdom of Age: Longitudinal Analysis of Age and Performance in US and Japanese Firms,” June 2018 |
| WP#18-42 | 福田一史・木村めぐみ・鳴原盛之・松井彩子「西崎光第1回インタビュー前半：ゲームショップの業務内容、ビジネスモデル」2018年9月 |
| WP#18-43 | 福田一史・木村めぐみ・鳴原盛之・松井彩子「西崎光第1回インタビュー後半：ゲームショップの業務内容、ビジネスモデル」2018年9月 |
| WP#18-44 | 清水洋・福田一史・井上明人・鳴原盛之・松井彩子「猪瀬祥希第1回インタビュー前半：テカカン〜テクモ時代のゲーム開発」2018年12月 |
| WP#18-45 | 清水洋・福田一史・井上明人・鳴原盛之・松井彩子「猪瀬祥希第1回インタビュー後半：テカカン〜テクモ時代のゲーム開発」2018年12月 |
| WP#19-01 | 清水洋・鳴原盛之・山口翔太郎「佐藤秀樹第4回インタビュー前半：セガのゲーム開発の歴史と社風」2019年1月 |
| WP#19-02 | 清水洋・鳴原盛之・山口翔太郎「佐藤秀樹第4回インタビュー後半：セガのゲーム開発の歴史と社風」2019年1月 |
| WP#19-03 | 生稲史彦・鳴原盛之「石井ぜんじ第2回インタビュー前半：アーケードゲーム専門誌『ゲーメスト』の独創的な誌面作りとアーケードゲーム論」2019年1月 |
| WP#19-04 | 生稲史彦・鳴原盛之「石井ぜんじ第2回インタビュー後半：アーケードゲーム専門誌『ゲーメスト』の独創的な誌面作りとアーケードゲーム論」2019年1月 |
| WP#19-05 | 清水洋・江藤学・生稲史彦・鳴原盛之「岩谷徹第2回インタビュー前半：ナムコビデオゲーム黎明期の開発体制」2019年2月 |

- WP#19-06 清水洋・江藤学・生稲史彦・嶋原盛之「岩谷徹第2回インタビュー後半：ナムコビデオゲーム黎明期の開発体制」2019年2月
- WP#19-07 生稲史彦・福田一史・嶋原盛之「岩谷徹第3回インタビュー前半：『キューティQ』『パックマン』におけるゲーム開発・企画の手法」2019年2月
- WP#19-08 生稲史彦・福田一史・嶋原盛之「岩谷徹第3回インタビュー後半：『キューティQ』『パックマン』におけるゲーム開発・企画の手法」2019年2月
- WP#19-09 中村彰憲・生稲史彦・福田一史・井上明人・嶋原盛之「岩谷徹第4回インタビュー前半：ナムコビデオゲーム開発の歴史と発想法」2019年2月
- WP#19-10 中村彰憲・生稲史彦・福田一史・井上明人・嶋原盛之「岩谷徹第4回インタビュー後半：ナムコビデオゲーム開発の歴史と発想法」2019年2月
- WP#19-11 木村めぐみ・井上明人・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「大橋太郎第1回インタビュー前半：生い立ち～電波新聞社入社当時の業務内容」2019年2月
- WP#19-12 木村めぐみ・井上明人・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「大橋太郎第1回インタビュー後半：生い立ち～電波新聞社入社当時の業務内容」2019年2月
- WP#19-13 福田一史・嶋原盛之・松井彩子「大橋太郎第2回インタビュー前半：マイコン雑誌の創刊とその誌面作り」2019年2月
- WP#19-14 福田一史・嶋原盛之・松井彩子「大橋太郎第2回インタビュー後半：マイコン雑誌の創刊とその誌面作り」2019年2月
- WP#19-15 井上明人・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「高橋豊文第1回インタビュー前半：生い立ち～リコーでゲーム開発業務に携わるまでの証言」2019年2月

- WP#19-16 井上明人・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「高橋豊文第1回インタビュー
後半：生い立ち～リコーでゲーム開発業務に携わるまでの証言」
2019年2月
- WP#19-17 井上明人・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「高橋豊文第2回インタビュー
前半：任天堂の家庭用ゲーム開発時の証言」2019年2月
- WP#19-18 井上明人・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「高橋豊文第2回インタビュー
後半：任天堂の家庭用ゲーム開発時の証言」2019年2月
- WP#19-19 清水洋・井上明人・嶋原盛之・松井彩子「大橋太郎第3回インタビュー前半：
電波新聞社のゲームソフトとグッズの流通、および販売についての証言」
2019年2月
- WP#19-20 清水洋・井上明人・嶋原盛之・松井彩子「大橋太郎第3回インタビュー後半：
電波新聞社のゲームソフトとグッズの流通、および販売についての証言」
2019年2月
- WP#19-21 江藤学・生稲史彦・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「斉藤利治第1回イン
タビュー前半：デジタル通信技術とゲーム開発の歴史の証言」2019年2月
- WP#19-22 江藤学・生稲史彦・福田一史・嶋原盛之・松井彩子「斉藤利治第1回イン
タビュー後半：デジタル通信技術とゲーム開発の歴史の証言」2019年2月
- WP#19-23 嶋原盛之・井上明人・松井彩子「斉藤利治第2回インタビュー：携帯電話
用プラットフォームとドリームキャストのハード開発」2019年2月

3. ケーススタディー——2018年度

諸企業に関する最新の調査成果の外部報告を、ケーススタディとして適宜発行している ([http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did\[\]=2&cid\[\]=6&cid\[\]=7&s=dd&ppc=20](http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did[]=2&cid[]=6&cid[]=7&s=dd&ppc=20))。

- CASE#18-01 尾田基・江藤学「地域イノベーションの事例研究：有限会社ヤマコ武田商店」2018年5月
- CASE#19-01 寺本有輝・水野未宙也・谷口諒「地域イノベーションの事例研究：鯖江市眼鏡産地における産地ブランド化の取り組み」2019年3月
- CASE#19-02 谷口諒「地域イノベーションの事例研究：岡山県真庭市における「バイオマスツアー真庭」」2019年3月
- CASE#19-03 高永才・成井裕子「地域経済活性化の在り方：兵庫県豊岡市の「鞆」ブランド取得ケース」2019年3月
- CASE#19-04 西原友里子・兒玉公一郎「地域イノベーションの事例研究：株式会社タカキベーカリーによる「石窯パン」の開発、市場開拓」2019年3月
- CASE#19-05 三浦友里恵・青島矢一「石川県七尾市における「街づくり」の挑戦」2019年3月

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒186-8603
東京都国立市中2-1
TEL 042-580-8411 (代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research